第6講

人文科学系(6)
正しさについて

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　ユルゲン・ハーバーマス（一九二九年生）というリベラル派を代表する知識人は、市場原理で決まる資本主義的な「正しさ」の設定に抗して、公共的な「正しさ」を再構築しなければならないと訴えました。つまり、かつて存在していた「正しさ」を復活させなければならないというのです。

2　ハーバーマスによれば、近代の初期に芽生えた公共性のあり方は資本主義社会の進展によって変質したといわれます。市民がそれぞれに自分のオピニオンを示しながら、コーヒーハウスに集(つど)って政治的な議論をするということが、かつては行われていたというのです。一七世紀後半、お酒にかわる嗜好品として市民の間に広がったコーヒーは、酩酊ではなく覚醒をもたらすものとして、市民文化の象徴になりました(注)。まさに近代革命の前夜、人々はコーヒーハウスに集い、単なる酒の場の愚痴ではなく明晰な論理で、支配権力に対する批判的な意見を交わしたのです。女性はコーヒーハウスに来るものではないとされ、議論の場はあくまで男性のものでしたが、コーヒーハウスにおける市民の公共的な議論は、やがて新聞などのメディアを通じて拡大し、民主主義の成立に大きく貢献しました。

3　しかし、そうして不完全ながら実現した公共的な議論の場は、時代の経過とともに変化してしまったとハーバーマスはいいます。近代社会が定着すると、政策の決定や執行は選挙で選ばれた代議員の仕事になり、市民が平時から公共的な議論をする機会は少なくなりました。「富」の章で見たように、資本主義社会において各人は、限られた視野で自分自身の欲望に従って生きるよう促されます。「正しさ」

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の判定は市場の客観性に委ねられ、神の見えない手をあてにして、各人は自分の目の前の仕事に没頭するよう促されるのです。目の前の仕事をこなし、自分で自分のキャリアを積み上げることに忙しい人々が、自分の利益に直接つながらない公共的な事柄を考えることに割ける時間は限られています。そうして、市場原理に支配される現実の社会で「公共的な議論」なるものの意義が低く見積もられることになっていったのです。

4　こうして資本主義社会における「公共性」への関わりは、むしろ「消費」を通じて確保されるものになります。自身の嗜好に応じてメディアを選択し「共感」を楽しむことが「公共性」のあり方になりました。反対意見にも耳を傾け、合意を目指して議論を積み重ねることは、そこでは目的とされません。政策を可能にする社会的な要件についての考察は欠いたまま、直感的に「いい」と思える候補者に投票することが、政治に対する一般的な関わりとなります。共感の共同体を背景にして「消費者の権力」を振るうことが、社会に対する最も効果的な介入方法として用いられることになるわけです。不快と感じるものにはクレームを入れてネットで吊るし上げることが「社会」を変えるための有効な手段になりました。

5　資本主義社会における「公共性」は、こうして、消費することを介して社会に関係する場を形成することになったのです。

6　ハーバーマスは、消費者たちのものへと変質した公共性をあらためて市民の手に取り戻す必要があると訴えます。そのためには、人々が理性的な議論をして物事を決める「熟議民主主義」を実現しなければならないといわれます。人々はそこで自分の意見を明確に述べると同時に他人の異なる意見にも耳を傾け、互いに納得しながら各自の意見を修正し、合意に至ることを要請されます。開かれた議論の場で時間をかけて話し合い、互いに納得できるかたちで物事を決めていくのが本当の意味での「公共性」だというわけです。ハーバーマスにとって「近代社会」はいまだ実現を見ていない「未完のプロジェクト」であり、人々は互いに協力しあいながら、その完成を目指さなければならないとされたのでした。

7　では、そのような議論は、どのような意味で「正しい」のでしょうか。実際こうした議論は、誰もが同意せざるを得ない理想的な政治のあり方を示しているように思われます。少

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

なくとも「このような社会を目指そう」という人に表立って反論することは、非常に難しいと感じられるでしょう。公明正大な議論で物事を決めていこうという理念には、反論を許さない「正しさ」があるように思えます。

8 それでもこの議論には、理念が先に立ちすぎている側面が否めません。社会はこのようなものでなければならないという理念が先に立てられ、その実現がどれだけ現実的でありうるのかについては考えられていないように思われるのです。例えばハーバーマスのいう熟議民主主義では、理性的に議論を積み重ねさえすれば人々は合意に到れるはずだという理想が前提になっていますが、現実にはそう上手くはいきません。熟議民主主義の有効性が検討される中で、さまざまな事例が研究されていますが、熟議を重ねても互いの立場の違いが解消されない例は非常に多く見られます。

9 リベラル派の人々は、こうした現実における上手くいかなさを啓蒙の不足と批判することになるでしょう。現実に上手くいかないのは、理性的な議論をきちんとしないからだと考えられます。みんなが同じように理性的な存在者として振る舞えば、互いの立場を越えて合理的に「正しい」結論を共有できるはずだというわけです。しかし、詳しい検討は次章まで持ち越しますが、私たち全員をあらかじめそのような「理性的存在者」と考えるカント以来の近代の理想は、理想にすぎません。「理性的存在者」であることは、生得的なものでは決してなく、特定の理念にコミットしてはじめて成立するものだと考える必要があります。「理性的存在者」であることを、個々人が同意した覚えのないまま前提にすることは、ある種の強制によってしか成立しないと考えられるのです。コミットした覚えのない人までコミットするのが当たり前だと考えるところに、この手の正義の困難があります。リベラル派の正義は、つまり、理念の上でのみ「正しい」ことを、すべての人に当然のように求めるという点で構造的な困難を抱えているのです。

10 ハーバーマスがいうような「公共性」は、少なくともかつては現実に存在していたのだから、単に理念上のものではないといわれる方もいるかもしれません。ハーバーマスのいう「公共性の構造転換」が起きる前には、不完全ながら市民的な議論が社会を実際に変える力になっていたではないかというわけです。資本主義によって変質してしまったとはいえ、市民社会を実現した「公共性」が、かつては存在した

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

のであれば、それを取り戻しさえすれば「未完」の近代を完成させることができるように思われます。

⑪　しかしながら、かつて存在したといわれる「公共性」は、資本主義へと変質したのではなく、むしろまさにその「資本主義社会」を成立させるものだったということを思い出す必要があるでしょう。コーヒーハウスの議論は、自由経済を確立し、資本主義社会を実現するための「革命」を実現しました。そこで成立した「近代社会」とは、アダム・スミスがいう「自由」を人々に与えるものでした。各人が限られた視野の中で自分の欲望に従って行為する「自由」は、神の見えない手の働きによって経済発展をもたらします。スミスによって実現した道徳の民主主義は、一般性の高さを唯一の「正しさ」の基準にする正義だったわけです。

⑫　そのような「革命」は確かに実現しました。しかし、それを実現した「公共性」が「資本主義化」するのは当然の成り行きです。「市民的な議論」によって目指されていたのは、資本主義的な公共性だったからです。その意味では、市民が熟議によって物事を決めるというかたちでの「民主主義」は、いまだかつて存在したことはなかったといわざるを得ません。各人がそれぞれに自分のオピニオンを表明し、互いの納得によって物事を決める社会は、その限りにおいて、一度も実現したことのない理想にすぎないといわなければならないのです。

⑬　しかし、「理想にすぎない」といって切り捨てる前にもう一例、リベラリズムの論客の議論を検討してみましょう。一九六〇代の公民権運動の高まりの中で経済主義に抗して「正義」を再定義しようとした試みに、ジョン・ロールズ（一九二一～二〇〇二年）の『正義論』（一九七一年）があります。戦後民主主義における高度な経済成長が実現する中で示されたロールズの正義論は、その後のアメリカにおけるリベラリズムのひとつの大きな基盤になりました。ロールズの正義論の概略を確認しながら、普遍的な正義の可能性を検討したいと思います。

⑭　ロールズは快楽計算で政策を決める功利主義を批判し、誰もが納得しうるルールの設定方法を模索しました。そのための戦略として用いられたのが社会契約論です。社会契約論とは、人間の自然状態を想定した上で、人々の契約によってあるべき社会像を描くものです。ホッブズやロック、ルソーなどの思想家が社会契約論を展開しましたが、その

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

うちのいくつかの議論が、近代社会の「憲法」として結実しました。今日の私たちの社会は、その成立の根拠の少なくも一部を社会契約論に負っています。ロールズはその社会契約の原点に立ち返り、あらためて「正義」とは何かを考えようとしました。

⑮　ロールズは人間の自然状態（彼の言葉で言えば「原初状態」）を、誰もが自分に与えられた社会的なポジションを知らない、という点に求めます。社会全体に鑑みて自分の能力がどれほどのものか、社会的に大多数を占める信条をもつような家庭に生まれたのか、それとも圧倒的なマイノリティとして生まれ落ちたのか、貧乏なのか裕福なのか――そのような自分の社会的な条件を知らない状態を想定しました。契約にあたって人々は「無知のヴェール」と呼ばれるもので覆われていて、それらの条件を知らない状態におかれているとされました。

⑯　そのような状態におかれているとき、人々はどのような社会を望ましいと考えるでしょうか。ロールズによれば、人は自分が最も不利な条件で生まれた可能性を考えて、誰にとっても住みやすい社会を作ろうとするはずだといわれます。社会のマジョリティに属し、少数派を排除して得られる利益の大きさを想像するより、自分が少数派になったときに不自由のない社会を望むはずだというのです。原初状態を仮定すれば、誰もが不平等や格差のない社会を望むというのがロールズの議論でした。

⑰　そこからロールズは、普遍的な正義の原理を導き出します。他者の自由を制限しない限りでの人々の自由を認めること、完全な平等はありえなくても最も恵まれない人の利益が常に考えられているような「不平等」しか許容されないことの二つが「正義」の原理になるとロールズは主張しました。「自由」と「平等」の原理が、誰もが同意する普遍的な正義の原理だというわけです。

⑱　こうして「正義」の基準を明確にできれば、あらゆる政策は、この原理に照らして優先順位をつけられることになるでしょう。「正義」を実現するための政策が第一のものであり、そうでないものは後回しでいいということになります。社会的なマイノリティに配慮し、不平等を是正するための政策が、こうして「正義」を実現するために優先されるべきものと見なされることになりました。

⑲　公民権運動以後のアメリカでは、一九八〇年代にネオ・リベラリズムが台頭するまで、こうした福祉政策の重視が現

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

実の政治にも反映されました。高度経済成長期に実現した福祉政策は、しかし、経済の成長が鈍化するにつれて批判にさらされます。「弱者」ばかりが優遇される福祉政策は、個々人の自助努力の結果として得られた収入を不当に奪っていると考えられるようになったのです。そうした白人低中間層の「不満」は、リベラリズムの立場からすれば、社会的マイノリティに対する想像力の欠如と見なされます。人がみな同じ「原初状態」におかれていると仮定してみれば「運良く」健康的な生活を送れている人でも社会的弱者になる可能性があったはずです。運の良い人が悪かった人の肩代わりをするのは、誰もが安心して暮らせる社会を設計するには必要なことだと考えられたのです。

20　こうした理念は、それにコミットした覚えがない人々にも強要できるものでしょうか。想定されるような「原初状態」におかれたら、人はみな同じ判断をするはずだというロールズの主張が仮に正しかったとして、実際にそのような原初状態におかれた覚えがない人に対して、リベラルな理念へのコミットを要求することはどのような権利で可能になるのでしょうか。経済的に追い詰められていく低中間層の人々は、不当なコミットメントの前提が「弱者」に過剰な救済を与えていると考えます。そうした考え方は「正しくない」と言ったとしても、彼らとの間の溝は深まるばかりです。

21　知的な「エリート層」が勝手に設定した「正義」の理念を押し付けられていると思う人々が、経済的・政治的に「強いアメリカ」を取り戻すという言説に魅力を感じるのは、ある意味で必然的な帰結であるように思います。リベラル派の「正義」が成立するためには、人々が実際にその原理にコミットすることが条件になりますが、現実にはすべての人々のコミットを前提した上で「正しさ」を要求するものになっているのです。前借りされたコミットメントの上に振りかざされる「正義」が、その負債を無視した上で、同意した覚えのない人々にまで「正しさ」の代償を求めているようにさえ思われます。「自由」で「平等」な社会を実現するには、すべての人がその代償を払わなければならないといわれるわけですが、そのような議論はどれほどの普遍性をもちうるでしょうか。

22　「自由」や「平等」という考え方は、近代における私たちの社会を成立させるために不可欠なものだと考えられます。それは人間の基本的な「権利」とされます。しかし、私たちがそう教えられてきた「権利」とは、いったいどのような意

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

味で「正しい」といいうるものなのでしょうか。「正義」をめぐる近代社会の魔法を解くためには、もう一段深く「自由」と「平等」という「権利」が成立するところまで掘り下げて考えなければなりません。

（注）「アルコールの毒素にあたって惚けていく人類を、市民的理性と能率に目覚めさせるのはコーヒー」（シヴェルブシュ　一九八八、三六頁）。

（荒谷大輔『使える哲学　私たちを駆り立てる五つの欲望はどこから来たのか』より）

（2022年度　慶應義塾大学　文学部）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

「正しさ」について、この文章をふまえて、あなたの考えを320字以上400字以内で述べなさい。

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

（　　　　字）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター3

答案例①

　「正しさ」とは、多くの人が「いい」と感じるもの・ことだと考える。なぜなら、その人の社会的立場・思想により、「何が正しいか」の主張は異なるためである。

　リベラル派の主張は理想的だが、「社会的マイノリティへの配慮」がすべての人にとって正しい行動であるとは限らない。公共の利益を追求した社会主義の衰退は、マイノリティへの配慮が「頑張っても報われない」という新たなマイノリティを生み出したことによる結果である。

　何が正しいかという普遍的な答えがない以上、市場の客観性をもってそれが定義されることは当然の帰結である。ただし何よりも重要なことは、「何が正しいか」の議論の芽を摘まないことだと考える。なぜならそれが各時代の論客の主張の根底にある、より良い社会の実現には必要不可欠だからである。

(358字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター4

答案例②

　私はハーバーマスが説く通り、正しさは公共的な場における大勢の人間の理性的な議論の結果として存在することが理想だと考える。現代の日本では、公共の場での議論や個人のオピニオンがない状態で「正しさ」を求められることが多いと思う。当然の様に資本主義社会である日本では、各人が目の前の仕事以外の客観的事柄を考える時間は少ない。しかし時と場に応じた「正しさ」という共通の判断指標を持ち合わせていることが、暗黙知となっているように感じる。それは、各人が自ら考えだした答えでも、大多数の議論の結果でもなく、道徳教育の中で教えられた既成の「正しさ」の応用である。私はこの作られた「正しさ」は安易な周囲の共感によって更に意味の無い状態になると思う。

　私は「正しさ」の根本にあるのは、個人のオピニオンであり、まずはこれを自ら問い直し、議論する事が必要だと考える。そうすることで社会格差や不平等が無くなると思う。

(400字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。